

私は今回のフィリピン遠征に選ばれて、本当に嬉しかったです。けれど初めての海外遠征で言葉は通じるのだろうか、自分のテニスはどこまで通用するのだろうか、などたくさんの不安がありました。しかし、フィリピンの方々には本当に陽気で優しくて、そんな不安はあっという間になりました。

フィリピンに着くと、温度が高くすぐに半袖になりました。そして、当たり前ですが周りにはみんな英語をしゃべっていたので、本当にこれから10日間やっていけるのかなと心配になりました。バスに乗ると信号待ちのときに、子供を抱いた女の人が物乞いに来てとても驚きました。そのあとホストファミリーの人達と会いました。家は大きな棟が2つありとても広くてきれいでした。街で見かけた物乞いの人達との貧富の差が大きいなど痛感しました。

2日目からフィリピンでのテニス交流会が始まりました。でもコートは貝殻の混じったシェルコートで日本のコートとは全然バウンドが違い、なかなか自分のショットが打てず戸惑いました。3日目から色々な大学やコートに行き、たくさんのフィリピンの選手達と試合をしました。フィリピンの選手はチェンジオブペースでバックのスライスを使うことが多くそれは真似したいと思いました。

ホストファミリーは14歳のモニカと両親と2人のお兄ちゃんとの5人家族でした。モニカとはとても仲良くなり、毎晩遊んだり話したりして楽しかったです。生活は何不自由なく過ごさせてもらい、テニスに集中することができました。

1月7日はマニラでの最後の練習でした。シングルスは18歳の選手と対戦しました。負けてしまったのですが、今までで一番集中して試合ができ、満足感がありました。練習後Good Byeパーティーがありました。恵ちゃんと一緒にしたスピーチはとても緊張しましたが、上手くいったと思います。とても充実した楽しいマニラ生活で、離れるのが残念でした。

1月8日からはセブ島に行きました。セブ島でも11歳のヤナ一家から温かく迎入れてもらいこどもでもマニラ同様快適に過ごさせていただきました。まず初日は観光でセブ島の歴史などを学びました。セブの選手達もとても親しみやすく、たくさん話しかけてくれました。

1月10日、フィリピン最後の練習でした。シングルスは残念ながら自分の調子を取り戻すことが出来ずに負けてしまいました。調子が悪いときこそ自分のテニス出来るようにすることがこれからの私の課題です。

この10日間は天候にも恵まれて、本当にいい経験ができました。フィリピンでテニスをしている人は本当にごく一部のお金持ちの人です。日本で今まで私は「テニスができる」ということを深く考えたことはありませんでした。しかし毎日好きなだけテニスができるこの環境に育った事に感謝の気持ちを持たないといけないと思いました。これからテニスを続けていく中で、つらいことや嫌になることもあると思いますが、この気持ちは絶対に忘れないで前に進んでいこうと思います。

最後になりましたが、坂本会長、古田コーチ、山本コーチ、神戸新聞の小川さん、フィリピンのコーチ、選手達、ホームステイ先の皆様、兵庫県ジュニア代表チームのメンバー、本当にありがとうございました。

この10日間は私の宝物です。

